

## SJ Interview

SJ インタビュー

## まず、「通学路の登校時の交通事故死者ゼロ」をめざし 「通学路総合交通安全マネジメント」を提案

地域の交通計画を専門とする久保田さんは、これまで生活道路における様々な交通事故防止対策を具現化してきた。そして、平成27年度から（公財）国際交通安全学会の研究調査プロジェクト「通学路 Vision Zero」のプロジェクトリーダーとして、子どもたちが登下校に利用する通学路の交通安全対策に取り組んでいる。

日本の交通事故死者数は減少傾向にあるとはいえ、未だ3000人以上が亡くなっている。死者数をゼロにするには、そこにいたるまでの道筋を示すことが大切だと久保田さんは訴える。「今回のプロジェクトでは、まず通学路の登校時の子どもの死者数をゼロにすることを目標としました。これを端緒に下校時、帰宅後と対象を拡げ、最終的に市街地の死者ゼロに結びつけたいと考えています」。

平成24年以降、全国の自治体で「通学路交通安全プログラム」が策定され、実施済みとなっているが、対策の内容やプロセスが確立していない中、必ずしも効果が上がっているとはいえないと久保田さんは指摘する。そこで、プロジェクトは「通学路総合交通安全マネジメント」を提案。これは道路管理者や警察、学校関係者が連携して、最新の交通安全対策と交通規制、周辺のまちづくりと組み合わせた対策を検討していくというもので、進めるにあたっては道路管理者や警察、学校関係者に加え、PTAや地域住民といった多様な関係者が参加して議論するワークショップの開催を提唱している。「多くの方々の意見を取り入れることができ、現状の課題認識から対策立案まで関係者全員で話し合い、合意形成を図ることが可能となります」と久保田さんはいふ。

ワークショップによって  
関係者の合意形成を図る

プロジェクトは発足2年目となる平成28年度、新潟県新潟市における小学校周辺の交通安全対策の事業に参画し、「通学路総合交通安全マネジメント」を試行した。新潟市は平成29年4月から4つの小学校を統廃合し新たな小学校（日和山小学校）を開校させた。これにより、学区が広がることになり、新たな通学路が設定される。学校周辺には多くの小学生の通行が想定されることから、新潟市主導で交通安全対策が検討されることになった。

対策の検討にあたり、ワークショップによる議論が平成28年7月から11月にかけて3回設けられ、新潟市、地元警察、対象地区の小中学校関係者、地元住民（PTA、自治会、交通安全関係団体等）、国際交通安全学会、国土交通省、大学から各回70人ほどが参加。プロジェクトのメンバーは司会やグループ討議での進行役として協力した。第1回ワークショップで問題として挙げられたのは、新たに開校する日和山小学校前の通り（通称：栄町銀座）で、朝の通学時間帯に幹線道路の混雑を避けるクルマが栄町銀座を抜け道として利用して危険であるというものだった。これを受けて、ETCプローブデータ（車両を通じて収集される位置・時刻等の情報）の分析、スピードガンによる速度調査、複数交差点におけるナンバープレート調査を実施。その結果、30km/hを超過した速度で通行するクルマの存在、抜け道利用の実態など、地元住民の感じていたことが客観データからも裏付けられたのである。第2回では、こうした客観データ



埼玉大学大学院理工学研究科 教授 久保田 尚さん

を共有し、具体的な対策案を検討。第3回で開校までに実施する対策として、栄町銀座においては朝の通学時間帯に通行規制を実施するとともにライジングボラード（写真参照）を実験的に導入することや、日和山小学校周辺にも新たにゾーン30の規制を実施することなどが決定された。

さらに、日和山小学校開校後にはETCプローブデータ、交通調査、意識調査を用いた分析結果に基づいて、4回目のワークショップを平成29年12月に開催し、各施策についての効果検証を行った。「栄町銀座では交通規制実施中（ライジングボラード稼働中）の違反通行はゼロでした。また、子どもや保護者、沿道住民への意識調査では全体の7割以上が『今後もあったほうが良い』と回答しており、本格実施に移行することで合意が得られました」と久保田さんは説明する。

実践した取り組みを踏まえ、  
普及のためのガイドラインを作成

新潟市における通学路交通安全対策での一連の取り組みをもとに、久保田さんは「通学路総合交通安全マネジメントガイドライン（案）」（以下、ガイドライン）を作成した。通学路の特徴を踏まえた対策のポイント、ワークショップの運営方法などがまとめられており、これを用いることで各自治体

の担当者が交通安全対策を進められるようになっている。

プロジェクトは、ガイドラインを活用し、沖縄県浦添市の2つの小学校（港川小学校、牧港小学校）の通学路交通安全対策にも参画した。ガイドラインに従って3回のワークショップを開催。港川小学校ではスムーズ横断歩道（写真下参照）、牧港小学校では交差点ハンプ（写真下参照）という対策を選び、社会実験を行った。そして、4回目のワークショップを経て、港川小学校では本格実施にいたっている。

「ガイドラインを完成させたことがプロジェクト最大の成果です。浦添市での事例から、その有用性も確認できました。日本の道路においては『安全』と『円滑』が並び立っています。しかし、通学路では『安全』が『円滑』の上にあるべきではないでしょうか。少なくとも、通学時間帯はクルマなどの通過交通ではなく、子どもを最優先に考えた対策を立案してほしいと思います」。

ガイドラインの普及によって今後、全国各地で効果的な通学路の交通安全対策が進み、さらに市街地全体での交通事故ゼロに向けて取り組みが具体化することが期待される。

※「通学路総合交通安全マネジメントガイドライン（案）」は以下のホームページで閲覧が可能。

<http://www.iatss.or.jp/common/pdf/research/1705C.pdf>



日和山小学校の周辺に設置されたライジングボラード（事前に設定した時間によって自動的に昇降する車止め）。許可車両や規制除外車はリモコン操作などによってボラードを降下させ、通行することができる。通行後、ボラードは自動的に上昇



スムーズ横断歩道はハンプ（道路の一部を盛り上げたもの）の一種。ハンプ中央の平坦部に横断歩道が描かれている



交差点ハンプは交差点内部全体を盛り上げるハンプ